教育目標

自ら求めて学び、心豊かに、たくましく行動する生徒の育成

1. 学習における生徒の実態・課題

①	令和6年度学習に関するアンケート(6月)で課題となる項目【肯定的評価の割合】		
②	・わからないところを先生に質問している	6月29.1%	→ 3月 %
	・家庭学習では、何をしたらよいか迷わない	6月50.9%	→ 3月 %
	※家庭学習の時間(2時間未満・塾を除く)	6月90.9%	→ 3月 %
	・話を聞く姿勢ができています	6月50.9%	→ 3月 %
③	令和6年度 全国学力・学習状況調査から【全国比】		
	・将来の夢や目標を持っている	70.0%	【+3.8%】
	・授業以外に2時間以上の学習をしている	20.0%	【-11.7%】
			※2時間未満 80.0%
	・授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる	75.0%	【-10.3%】
	・授業で、PC、タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか	85.0%	【+15.6%】
	・学習した内容について、わかった点やわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか?	85.0%	【+7.1%】

2. 学力向上のための方策

- ①学ぶ意志と態度を育成する
- 「あじさいスタンダード」⇒生徒の学ぶ意欲を引き出し、一人ひとりが分かる授業、一人ひとりを伸ばす授業の実践→研究授業[一人一本以上の公開授業]・授業研究の実施
 - 「学び合い」学習の実践・TT指導の充実(数・英)
 - ゴールを見据えた「めあて」の提示
 - 学習に関するアンケート「授業中は、今何をしているのか(今何をする時間なのか)意識しながら学習に取り組んでいる」(6月78.2%)
 - 目標：学校全体の肯定的割合90%
 - 学習規律の確立「授業四原則」(1分前着席・あいさつ・返事・聞く姿勢、態度)
 - 学習に関するアンケート「授業中にきちんと返事ができている」(6月65.5%)「授業中に話を聞く姿勢ができています」(6月50.9%)
 - 目標：学校全体の肯定的割合80%
- ②基礎的・基本的な学力の定着を図る
- 個の状況に応じた、個が伸長する指導⇒**家庭学習の見直し・改善、ICT機器の活用(利用)**
 - 学校図書館、ICT機器、インターネット等の効果的活用、クロムブック利用率向上(キュビナの利活用推進月間への取組)の実施
 - 学校評価「先生は電子黒板や書画カメラ、クロムブックなどを使って、授業がわかりやすくなるように工夫している」
 - 目標：学校全体の生徒の肯定的割合80%以上
 - 課題の精選「家庭学習の手引き」の作成及び活用
 - 学習に関するアンケート「家庭学習が学力向上に役立つと思っている」(6月85.5%)
 - 「家庭学習(予習・復習)の仕方が理解できている」(6月65.5%)
 - 目標：学校全体の肯定的割合90%以上
 - 漢字・計算・英単語テストの実施(授業・家庭学習・朝の時間の活用)
- ③一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する
- 個に応じた指導の充実
- ↓
- 全教科での共通実践**
- 「話を聞く姿勢」の改善
 - 「書くこと」の学習の徹底

各教科における課題(◎)と改善策(○)

【全教科共通 重点実践事項】 「基礎学力の定着」と「個別支援の充実」

<p>国語</p> <p>◎基礎・基本の定着が不十分。 ◎「書く力」が不足している。 ◎資料等から「情報を読み取る力」、「その情報を扱う力」の育成が必要である。 ○授業で単元テストを行うとともに、キュビナを活用した漢字・文法など、言語事項の定着を図る。 ○グラフや表などの資料が使用された文章教材を適切に用いて、内容を読み取る活動を行う。 ○根拠を明確にして、適切な意見を書くこと、話すことを徹底させる。</p>	<p>社会</p> <p>◎基本的な事項の理解が不十分である。 ○写真やイラスト、地図、グラフなどを取り入れた、視覚的に分かりやすい、精選されたプリントを配布する。 ○教科書・資料集・地図帳を活用して、ノートをしっかりとまとめさせ、それを何度も見て覚えさせる。 ○YouTube 動画『ヒストリー・ラバーズ』を視聴するよう促し、学習内容の徹底を図るとともに、興味・関心を誘発させる。</p>	<p>数学</p> <p>◎問題に書かれていることを読み取る力が弱い。(イメージ力) ○授業で大切な事項の復唱や授業のポイントを適時、振り返る。 【わかったタイムの活用】 ○図や表、式、グラフを関連させながら書き込む作業を取り入れ、問題解決させる。 ↓ ○問題解決の見通しを立て、解決に用いる手段や考え方を明確にする。 ・教え合い、学び合う時間を設定し、問題解決に向かう意欲を高める。【章末問題の時間】</p>
<p>理科</p> <p>◎観察・実験の課題が一人一人の課題になっていないため、自律的な学習として取り組めていない。 ○一人1台端末を有効活用した授業を仕組む。 ○問題演習や小テストをキュビナを活用して授業の中に位置づけ、基礎基本を徹底する。</p>	<p>音楽</p> <p>◎歌唱表現に苦手意識があったり、基礎・基本の定着が不十分だったりする生徒がいる。 ○自己評価表やクロムブックを活用しながら、生徒の状況に応じて指導していく。</p>	<p>美術</p> <p>◎基礎・基本の定着が不十分で、創造的な発想や表現を苦手として積極性に乏しい生徒がいる。 ○学習用具の連絡を徹底し、忘れ物ゼロを目指す。 ○「めあて」を確認し、どこに注目したらよいか、要点をおさえさせる。 ○作品や用具の保管・管理を徹底させる。</p>
<p>保健体育</p> <p>◎一つ一つの運動課題の取組が雑である。 ○運動の行い方や効果を確認しながら取り組ませる。 ○グループ活動や話し合い、ペアを組んでの観察やアドバイスの機会を多くとり入れる。</p>	<p>技術・家庭</p> <p>技術</p> <p>◎身の回りの事象を多角的に評価することができない。 ○視点を提示し、それに沿って分析させる。</p> <p>家庭</p> <p>◎問題を見出し改善する力、またそれを言葉で表現する力が不足している。 ○授業の最初に小テストを実施し、学習内容の定着を図る。</p>	<p>英語</p> <p>◎全体的に英語への興味・関心が低く、基礎・基本の徹底が不十分である。 ○単元テストや単語テスト、長期休業明けにスプリングコンテスト(単語100題テスト)を行い、単語や文法の定着を図ることで、達成感や自信につなげる。 ○ALT との授業などを通して、英語がわかる喜びや伝わる楽しさを実感させる。 ○理解から活用につなげ、ペアやグループ活動などで英語を使う機会や互いに教え、学び合う機会を増やす。</p>